

削減目標設定の考え方

1 削減目標の考え方

- ・国・兵庫県の計画では市町村と協力・連携しながら温暖化対策に取り組むことが前提となっており、国・兵庫県の施策と尼崎市の施策の効果を明確に分けることは不可能であるため、現状趨勢の推計結果を踏まえながら、国・兵庫県の施策の効果、アンケート結果からの市民・事業者の自主的な取組の効果、尼崎市の独自の取組の効果を積み上げることで削減目標を設定します。
- ・削減目標は尼崎市独自の取組の効果による削減量を示すものではなく、低炭素社会の実現に向けて各主体が取組を行った結果、2030 年時点において排出されている温室効果ガス排出量という意味として捉えるものとします。また、このように捉えることにより、市民・事業者・行政が取組の方向性を共有することができます。

2 削減目標の対象

- ・現行計画と同様に、尼崎市から排出される温室効果ガスの大部分を占める二酸化炭素を対象とします（2013 年度実績において 99 %以上）。
- ・なお、メタン・一酸化二窒素についても推計を行い、尼崎市から排出される温室効果ガス排出量についても把握を継続します。

3 削減目標の設定方法

(1) 設定方法

- ・地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル（平成 29 年 3 月）」では大きく 4 つの方法が示されています。

施策・対策の削減効果の積上げによる設定

国の計画目標を踏まえて設定

- 1 総排出量の削減目標（2030 年度に 2013 年度比で 26.0 %削減）を踏まえて設定
- 2 部門・分野別の排出量の削減目標を踏まえて設定

兵庫県の計画目標を踏まえて設定

2030 年より未来の目標値を設定し、その目標値を達成するために 2030 年時点で求められる水準を算出（バックキャストで算出）

(2) 考え方

- ・部門・分野別の排出割合が国・兵庫県と異なることから、上位計画の部門・分野別の排出量の削減目標を踏まえることを基本とし（ 1 ）国・兵庫県の施策のうち本市に関係のあるものの効果や市民・事業者の自主的な取組の効果を一定見込みながら、尼崎市独自の取組による削減量（ ）を積み上げることで設定を行います。
- ・尼崎市独自の取組による削減量については、環境モデル都市アクションプランを策定する際にも必要となる情報です。

表 削減目標の設定方法の採用の可否

| 設定方法 | 採用の可否 |
|------|--|
| | ・ 尼崎市独自の施策の効果で把握できるものについては積上げることが望ましい(採用する)。 |
| 1 | ・ 国と尼崎市の部門・分野別の排出割合が異なることから総排出量に対する削減目標をそのまま適用することは難しい(採用しない)。 |
| 2 | ・ 国・兵庫県の施策の効果も尼崎市からの排出量の削減に寄与するため、尼崎市に関する施策の効果を整理し積上げる(採用する)。 |
| | ・ 兵庫県と尼崎市の部門・分野別の排出割合が異なることから総排出量に対する削減目標をそのまま適用することは難しい(採用しない)。 |
| | ・ 社会・経済情勢の動向が不明であるため、2030年以降の目標値の設定が難しい(採用しない)。 |

[削減量の算出のイメージ]

現状趨勢の推計結果から削減量が明らかとなっているもの
 +
 国・兵庫県の施策の効果(尼崎市に関係のあるもの)(1)
 +
 市民・事業者の自主的な取組の効果
 +
 尼崎市独自の取組の効果()

(3) その他(尼崎市環境モデル都市アクションプランにおける削減目標)

・ 尼崎市環境モデル都市アクションプランでは二酸化炭素以外にメタン・一酸化二窒素も含めた「温室効果ガス排出量」として目標値を設定することが求められているため、現状趨勢の推計結果を踏まえながら、二酸化炭素排出量を削減する過程で削減できるメタン・一酸化二窒素排出量の削減分についてはアクションプランで設定する削減目標に積上げます。

4 指標の設定

・ 尼崎市から排出される二酸化炭素に関する目標値だけでは、削減に向けた取組の進捗状況がわかりにくいいため、削減目標とは別に取組状況がモニタリングできるような指標の設定についても検討を行います。

[指標の例]

- ・ エネルギー使用量(J)
- ・ 市内で使用されている電気の排出係数(t CO₂/kWh)
- ・ 再生可能エネルギー(太陽光発電設備)の導入状況(kW)
- ・ 環境学習講座への参加者(人・講座)

など